

和歌山市交通まちづくり研究会 終了報告

- 和歌山市のまちづくり戦略と都市間交通網に関する研究 -

研究会主査 辻 本 勝 久
【和歌山大学経済学部教授】

和歌山市では、紀ノ川北岸に和歌山北インターチェンジができ、京奈和自動車や第二阪和国道の開通も予定されているなど、高規格道路網が発達してきており、域外からの観光需要等の獲得や、高速バス路線網の発達等が期待される一方で、買い物客等の他地域への流出傾向がさらに強まる懸念もある。

また、和歌山市には南海本線、JR 阪和線、JR 紀勢本線、JR 和歌山線等の都市間鉄道路線や、四国を結ぶ南海フェリーがあり、大きな社会的役割を果たしている。とりわけ JR 和歌山駅等の主要駅とその周辺の都市機能集積には、コンパクトなまちの中心核としての役割や、観光軸などのハブとしての機能、大阪に流出しようとする県内買い物客をせき止める機能等が期待できる。一方で鉄道・フェリーの利用者数は減少傾向にあり、鉄道の所要時間が延びる傾向にあるなどの問題も抱えている。

さらに、泉州沖には 24 時間オープンの関西空港があって、LCC 拠点化等の新たな展開がなされており、これを活用したインバウンド旅客の獲得等の地域戦略が期待される。

このように和歌山市を取り巻く都市間交通網に様々な変容が見られ、期待と懸念が交錯する中、本研究では「和歌山市まちづくり戦略研究会」での議論を踏まえつつ、あるべき和歌山市の実現に向けた都市間交通網の活用方策や改善方策について考えている。

研究期間は 3 年間であり、3 年目となる平成 26 年度には「高規格道路網を活かした和歌山市の発展方向」をテーマとし、2 月には 3 年間の総まとめとしてシンポジウム「広域交通網を活かした和歌山市の発展方向」を開催し、報告書を取りまとめた。研究会は後述のメンバーと、多数のオブザーバーの参加のもとで進められた。日程と報告者・報告テーマは次の通りであった。

6 / 11 14 名

1. 本年度研究会の進め方・内容について

7 / 3 1 1 4 名

1. 高規格道路網を活かした和歌山市の発展方策や視察先に関するアイデア出し

(永尾氏、影山氏、畑山氏、中平氏、寺岡氏、米原氏、井口氏、宋氏、中浴氏、
藤田氏、塩路氏、上野氏、辻本)

9 / 2 6 1 3 名

1. 観光をテーマとした戦略提案
(中平氏、宋氏、林氏、米原氏、影山氏)

11 / 13 15名

1. 高規格道路網の防災機能と和歌山市の防災拠点性 (辻本)
2. 交通まちづくりシンポジウムの企画 (全員)

12 / 18 10名

1. 高規格道路を活かした和歌山市の活性化プラン (中平氏)
2. 国土交通大学校において実施された研修の参加報告 (上野氏)
3. 交通まちづくりシンポジウムの企画 (全員)

1 / 14 12名

1. 高速道路交通網を活かした防災と物流 (藤田氏)
2. 交通まちづくりシンポジウムの企画 (全員)

2 / 27

シンポジウム「広域交通網を活かした和歌山市の発展方向」

開会挨拶 吉村氏

コーディネータ 廣岡氏

研究報告 影山氏、寺岡氏、藤田氏、辻本

パネルディスカッション 廣岡氏、藤田氏、寺岡氏、中平氏、永尾氏、辻本

企画、会場設営など 中浴氏、日浦氏、上野氏、上野山氏、井口氏、米原氏

聴講者 52名

3 / 27 8名

1. 報告書のとりまとめについて (上野氏)

和歌山市交通まちづくり研究会

メンバー：

辻本 勝久 (代表) 和歌山大学経済学部教授

藤田 和史 和歌山大学経済学部准教授

廣岡 裕一 和歌山大学観光学部教授

畑山 善生 和歌山社会経済研究所研究部長 (平成 27 年 1 月 31 日迄)

中西 望 和歌山社会経済研究所研究部長 (平成 27 年 2 月 1 日以降)

中平 匡俊 和歌山社会経済研究所主任研究員

塩路 眞英 和歌山社会経済研究所主任研究員

影山 慎也 和歌山社会経済研究所主任研究員

林 秀訓 和歌山社会経済研究所研究員
中谷 正隆 和歌山商工会議所企業支援部企画・街づくり支援室室長補佐
日浦 孝祉 和歌山商工会議所企業支援部企画・街づくり支援室主事
上野 美咲 和歌山大学経済学部特任助教
上野山裕士 和歌山大学観光学部特任助手

オブザーバー：

永尾 吉賞 和歌山県企画部企画政策局調査統計課主査
志場 久起 わかやま NPO センター理事、事務局長
井口 智史 和歌山大学大学院観光学研究科（学生）
寺岡 紀晋 和歌山大学大学院経済学研究科（学生）
宋 謙 和歌山大学大学院経済学研究科（学生）
米原のぞみ 和歌山大学経済学部（学生）

（注：所属・肩書については平成 26 年度時点）